

図門江開発と東北アジアの経済発展（2）

東京工業大学社会理工学研究科経営工学専攻 曹徳弼

03-5734-3570、cdb@me.titech.ac.jp

中国の行政区域は省、地区、市（県）に細分化されており、琿春は中国、吉林省、延辺地区の管轄になっている。延辺地区は吉林省の一つの地区であり、朝鮮族が多く居住しているということで名前も延辺朝鮮族自治州になっている。吉林省は中国の東北の中部に位置しており、全面積は 18 万平方キロメートル（日本の約 1/2）、省政府の所在地は長春である。

吉林省の経済成長率は 80 年代において 87、88 年 2 年間を除いて全国平均水準を下回っている。90 年代に入って遼寧、黒龍江の両省が全国水準を下回っているのに対し、吉林省の GDP の伸び率は 92 年以降全国水準を上回っており、堅調に伸びている。一人当たりの GDP は山東、江蘇、福建、海南、黒龍江と同じく 400 ドル超、700 ドル未満である。経済においては「東北現象」、すなわち、重工業の比率が高く（企業数 51.5%、生産額 72.4%）、大型企業の生産額が高く（55.7%）、国有企業の比率が高い（企業数 20.6%、生産額 73.6%）のが吉林省の特徴である。人口は 2592 万人、500 万人を超える大都市は長春市の 1 つだけである。吉林省のトウモロコシの生産量は全国の 14.5% を占めており、全国第 1 位である。エネルギーの生産においてはそれぞれ、石炭が全国の 1.9%、石油が 2.3%、電力が 2.8% を占めている。主な鉄道は南北を走る長白線（330km）と東西を走る長図線（531km）があり、道路全長は 29,581km、年輸送量は道路輸送量が 80 億トン km で全体の 16% を占めている。1996 年からの第 9 次 5 ヶ年計画では食糧を 500 万トン増産、図門江開発、貿易総額 50 億ドル、長春—吉林、長春—四平を結ぶ高速道路の建設、経済年成長率 10% などが目標になっている。

延辺朝鮮族自治州は 1952 年 9 月 3 日中央政府政務院の許可を得て成立され、敦化、安図、延吉、図門、琿春、龍井、和龍、汪清など 8 つの市と県の行政を統括しており、今も毎年 9 月 3 日には各市や県で記念行事（主に運動会）が行われている。人口は 213.8 万人、内、漢民族が 57.1%、朝鮮族が 39.9%、満族が 2.6% を占めている。17 世紀頃は満族が絶対多数を占めていたが、清政府がロシアの侵攻を防御するために、18 世紀頃河北、山東両省から大量の漢民族を強制的に延辺地区に移住させたために漢民族が多数を占めるようになったと言われている。朝鮮族は主に 1869 年の朝鮮の未曾有の大飢饉と、日露戦争後日本が朝鮮を植民地にした後に大量に流入したようである。地形は丘陵面積が全体の 13.3% を占めており、琿春など 44 個の盆地がある。河川は図門江など 4 大水系があるが、64 の支流を持つ図門江が一番大きい。4 大河流域の面積は全体の 53.5% を占めている。年平均気温は摂氏 2℃～6℃であり、毎年最低気温は零下 28℃～34℃、最高気温は 34℃～38℃である。平均降雨量は 400～650mm である。資源は金属非金属（40 種類以上）などいろいろあるが、長白山脈の木材と琿春の石炭が特に有名であったと覚えている。

琿春は中国で唯一のロシア、朝鮮と隣接している都市であり、吉林省の「極東」に位置している。琿春は東西 80km、南北 40km の盆地であり、海拔高度は 80m で海に近いために、幾分海洋性気候にも恵まれている。20 数年前に筆者が琿春にいた時には 3 万人ぐ

らしいしかなかった小さな町が、今は 30 万人の大きな町になっているようである。70 年頃は冬になると雪で道路が塞がれてしまう時が多く、中学生は毎年除雪の手伝いで田舎に行かされていた。道路は琿春市内から東には春化(郷、昔の「人民公社」)、南には敬信、西には蜜江経由で図門、北には大荒溝まで延びている。図門やロシアのザルビノまでの鉄道はすでに建設されており、長春から琿春までの高速道路、琿春から防川までの高速道路が建設中である。「琿春河」は琿春市の南側を流れているが、地理的には琿春平原(琿春の人は琿春盆地を琿春平原と呼んでいた)の中心の北寄りを東から西に流れて図門江と合流し、海に向かう。「琿春河」の源流は春化郷の分水嶺あたりから始まり、源流の水は透き通るほどきれいである。100km 以上流れて琿春まで来ても雨が降って土砂流失しないかぎり、かなりきれいである。この水で琿春平原の稲を育てているから、その美味しさは言うまでもないと思う。

図門江開発計画は、琿春市敬信郷の防川村に港を造り、図門江を経由して日本海に進出する計画が最初であると言われている。琿春の中口辺境は防川を除いてほとんど山であるため、機械化部隊の移動は非常に難しく、ロシアと比較的に平坦な陸地続きの防川は軍事的要地として昔から非常に重要視され、新聞や小説によく登場していた。文化大革命時代には民兵という組織があり、「武装民兵」には武器と弾薬が配られていたが、防川の民兵には正規軍に負けないぐらい先進的武器が配られていたそうである。筆者が知識青年として琿春郊外に下放していた時には、「反帝反修最前線」として有名な所だった。

琿春には幾つかの中学(高校含む)があった。その中でも有名なのは琿春第 2 中学校、文化大革命の前は延辺第 4 高校として、多くの優秀な人材を大学など社会に送り出したそうである。文化大革命のときには「8.27」、「連合大軍」などの組織があり、お互いに相手を「保皇派」とし、自分が「造反派」であると争ったが、辺境地帯である故に軍が関与しなかったのも、大きな武力衝突もなく、破壊も小さかったといえる。筆者は当時小学校 3 年生で、「革命」には参加できなかったが、教員達が「串連」(「革命組織間の連絡」)に行っていたために、2 年間も授業を受けずに毎日遊んでばかりしていた。教育水準は文化大革命が終わってから順調に回復し、今は南部沿海地区より高くなっているようである。因みに、筆者は琿春出身で、87 年清華大学の修士号をとり、92 年に東京工業大学の博士号を取った。日本へ留学に来ている人も何十名いる。

琿春は朝鮮と図門江を境に隣接しているが、冬になると図門江が凍結してしまうために、辺鄙な山奥では間違えて国境を越えてしまう場合もある。文革当時は迫害を逃げて(多くの北朝鮮に親戚を持つ朝鮮族は「朝鮮スパイ」とされていた)、図門江から泳いで北朝鮮に逃げたが、途中辺境パトロール部隊に見つかり、機関銃射撃で何十名もの命が失われたという噂を聞いたことがある。罪は「叛国罪」(国反逆罪)であった。もし、当時に福建省から船で日本に密入国する途中に海上パトロール部隊に見つかったら、恐らく同じ罪で機関銃射撃にあったかも知れない。

近年、図門江開発計画が発表されて以来、江沢民総書記、李鵬委員長、朱熔基首相、喬石元委員長など、国家の指導者はほぼ全員そろって琿春を視察したことがあり、琿春ブームが起きた。開発が進み、琿春炭坑と発電所だけで元の琿春市内の人口を超えてしまった。土地の値段も白熱化した。今は安定しているようである。因みに、筆者が 3 年間も下放していた琿春市郊外にある「鎮郊公社高産大隊」の農耕地にはほとんど建物が立ってし

まったようである。

改革開放以来、琿春市の経済もかなり発展している。乗用車 1 台なかった琿春市内にいまは何百台もの乗用車が走っている。カラオケも数多くあり、ロシアの女性達が出稼ぎに来ているらしい。反面、経済犯罪や凶悪犯罪も増えているようである。市政府や公安局が犯罪撲滅にかなり力を入れているようで、かなり成果が上がっているようである。外資系企業の投資も年々増えており、経済は順調に伸びているようである。

小さい頃、日本人が琿春を第 2 の香港にする計画を立てていたとの噂を聞いたことがある(岐阜県に琿春在住経験のある開拓団の人達の会があるようである)。確かに誰が見ても琿春は地理的にも、気候的にも恵まれており、経済的にも軍事的にも貴重な所である。エネルギーとしては琿春炭坑や「琿春発電廠」があり、交通としては図門までの 1 級道路に建設中の高速道路、図門までの鉄道、ザルビノ港までの鉄道、防川までの高速道路があり、延吉空港までは車で 1 時間 30 分である。延吉空港が国際空港になれば、東京まで 2 時間で来られる。通信としてはロシアのウラジオストックまでの国際線、羅津までの光通信が開通しており、国内通信では延辺地区の一人当たりの電話回線が中国 1 になっているようである。労働力の質も高、中卒の比率がかなり高く、広東省や福建省の南部沿海地区よりいい。インフラ整備は今でも防川港建設、高速道路建設を中心に、法律などソフトなインフラ整備も含めて弛まず続いているようである。

天池俱樂部からのお願い

当俱樂部は中国朝鮮族の交流を促進することを目的とした非営利的組織です。交流、協力及び共同発展をモットーに共に活動して行きたいと思えます。活動は会員の皆さんの会費と寄付金により運営されており、毎月最後の日曜日の午後、文京区役所で定例会を行います。また、会員様に天池人文をお届けします。今後とも暖かいご支援を賜りますようお願いいたします。

年度会費
正会員 社会人：3,000円 学生：1,000円
購読会員 2,000円(年12回の郵便料として)
振込先：東京三菱銀行 小飯田橋支店
テンチクラブ インショウシュ サマ
0005-071-0228416

連絡先：〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 4-3-1-303
TEL:03-5668-4751
FAX:03-5668-4750
天池俱樂部 事務局 尹昌洙

天池通信

제 37차天池俱樂部정례모임開催

지난 1998년 5월 31日文京區區役所 5층회의실에서 天池俱樂部 제 37차 정례모임이 있었습니다. 40여명의 조선족분이 참가하였습니다. 예상외로 많은 분들이 참가하여 의자가 모자라는 헤프닝이 있었습니다. 장소가 비좁았음에도 불구하고 여러분들은 열띤 교류를 하였습니다. 특히 일본에 온지 얼마 안되는 분들은 여러가지 면에서 선배들에게 조언을 구했고 여러 선배들 또한 자신의 경험, 교훈을 살려 적극적으로 조언해주었습니다.

동경에서 [새누리]잡지를 경영하시는 재일교포 박철민사장이 모임에 참석하셨습니다.

제 38차天池俱樂部정례모임

동남아세아의 금융위기가 금방 진정한 모습을 보이자 이번에는 세계의 경제대국인 일본에도 불이 붙으려나 같습다. 겨우 한달이 한되는 사이에 미화와 엔화의 환율이 10엔이나 하락하여 세계적인 경제공황에 경고종을 울리었습니다. 일본에서 생활하면서 또한 중국과 밀접한 관계를 갖고 있는 우리들에게 일본엔화의 대폭적인 하락은 수수방관해서는 안될 문제가 되고 있습니다. 미국정부와 일본정부의 시장개입에 의해 엔화는 잠시 진정세를 보이긴 했지만 일본의 경제가 회복되지 않는한 위험성은 근절되지 않을것입니다. 그리고 또 그것은 곧 세계적인 위기를 의미하고 중국에 있는 우리가족들의 생계를 직격할것입니다. 지금 우리들의 힘으로 무엇을 개변할수 있는것은 아니겠지만 그러나 정세를 분명히 알고 그에 알맞는 최선책을 취하는것은 현명한 처사일것입니다.

이번 모임은 금융지식, 금융위기에 관한 테마로 서로 교류하려고 하오니 자신의 지식 및 생각을 적극적으로 피로해 주시길 바랍니다.

場所: 文京區區役所5階中小企業振興センター研修室 B室

時間: 1998年6月28日 午後 1:30 - 4:50